

伝統行事

毎年多くの人で賑わいをみせる大祭から、古くから受け継がれてきた伝統行事まで、年間を通して様々な催しを行っています。歴史の息吹を感じる祭りには、輝きに満ち溢れた人々の笑顔が集まります。



斎王まつり

ノハナシヨウブが咲き誇る6月上旬、斎宮歴史博物館を中心に2日間にわたって繰り広げられ、平安時代の王朝絵巻を今に再現します。

1日目は前夜祭が行われ、2日目には主役の斎王をはじめ、女別当・内侍など総勢約120人が「斎王群行」を行います。天皇の名代として伊勢の大神に仕えるため、都を離れ斎宮寮へ旅立った斎王とその一行の群行の様子が、華やかに再現されます。明和太鼓や雅楽などのアトラクションも、祭りに花を添えます。

斎王のみ霊を鎮めようと始まったこの祭りは、今では町を代表する祭りの一つとなり、国史跡である「斎宮跡」のPRにも一役買っています。



大淀祇園祭

疫病除けや農・漁業の繁栄を祈って、江戸時代中期から始まった祭り。毎年旧暦6月14日（現在はそれに近い土曜日）に行われます。宵宮の東区の山車を皮切りに、当日は三世古（北区・中区・西区）、山大淀の山車が区内を練り歩き、威勢のいい笛や太鼓が祭りの雰囲気盛り上げます。夕刻、山車を2隻の漁船に載せて大淀漁港に浮かべる海上渡御で、祭りはクライマックスを迎えます。夜には盛大な花火大会が繰り広げられます。



虫送り（菰村）

「虫送り」とは、稲の害虫を松明の火で追い払う農村の年中作業の一つ。菰村の虫送りは町指定無形文化財にも登録され、現在も受け継がれている。



祇園祭（算所）
笛や太鼓の囃子に合わせ、総ケヤキ造りの山車が地区内を練り歩く姿が壮観。



いつきのみや観月会
いつきのみや歴史体験館で開催される、平安の月見をしのぶ催し。約3000個のろうそくに灯りが点され、寝殿造りの建物を照らし、幻想的な空間が広がる。



御頭神事（前野）
厄払いと地区の安全を願う行事。正念寺境内での「かけ舞」奉納や御頭などの行列が見もの。



羯鼓踊り（有爾中）
宝暦年間（約250年前）に起源をもつと言われる、宇爾桜神社の天王祭に奉納される羯鼓（太鼓の一種）踊り。頭には赤熊、腰に蓑、腹には白木綿など独特の装束を纏うのが特徴。



上村天王祭（上村）
煙火を打ち上げて「無病息災」などを願ったことが由来の夏祭り。子ども神輿が地区内を練り歩き、夜には田んぼの真ん中で花火が打ち上げられる。



安産祈祷相撲（中村）
四隅に飾られた幣を、子どもを授かった家に飾られることから「安産祈祷相撲」と呼ばれている。志貴の精霊相撲と同じく、チビッコ力士たちが奮闘している。